

- ⑤ 必要があれば修理するが、月に何回というのは難しい。
- ① 他に頼むのか、自分でやるのかという点で判断し、「しないことはない」と判断して4に記入した。
- ④ 他の質問項目にもあてはまるが、妻の留守の時などに家事をすることがあるので「年に何回か」という選択肢がほしい。

- f) ① 通帳の管理と考えた。4と回答
- ② 妻も働いているのでそれぞれの管理と考えた。自分の年金と小遣いの管理。
 - ③ 夫婦とも通帳をつけていないので、二人とも5と回答。
 - ④⑤ 妻に任せている。自分の小遣いは家計と考えなかった。妻は1、自分は5。
 - ⑥ 毎日の財布の出し入れと考えて、毎日と考えた。
 - ⑦ 毎日は見ないが、残高くらいは見る。支出のチェックの頻度で回答2。
 - ⑧ 家計簿をつけないので、収支を確認する程度の月に1度くらいと考えた。
 - ⑨ 毎日の出し入れと考えたので、妻が管理と判断して記入。

【問9】

a) 「スーパーやコンビニで惣菜や弁当買い物をする」について、惣菜や弁当と限定して考え、他の日用品を含まずに考えたか。

- ⑨ お昼のお弁当程度と考えて、週2～3回と記入
- ⑥、⑦ 飲食類のみと考えた。日用雑貨は考えなかった。
- ⑧ 弁当と解釈。

b) 外出について

- ①② 昼食を含まず、家族での外出と考えた。勤め先での外出は含めていない。
- ③ 「あなたは」となっていたので、昼食も含めて考えた。
- ④ 勤め先での食事でも外出に含めるのか迷った。

c) 出前について

- ④ 家でとる出前と考えて記入した。

e) ワイシャツなどのクリーニングについて

- ① 自分ひとりではなく家族全体として考えた。
- ⑥⑦ 月に1回くらいまとめてクリーニングに出す。

【問10】 ④ 自分の主観で記入した
特に迷いはなし。3人の意見。

【問 11】

- ① その時の気持ちで答えが違ってしまおうと思ったので、すべて「どちらともいえない」と答えた。
- ② a、d の区別は読んでいて違和感はなかった。a は、何かあったときに頼れる人と考えた。
- ③ 「たくさん」の程度が分からない。
「たくさん、の程度はどのくらいか」
- ⑤5人 ⑦⑧3人以上 ⑨数では考えなかった。a は職務上で頼れる人と考えた。
- ① 数は考えず、イメージで判断した

【問 12】

a) 仕事・職場について

- ⑤ 現在仕事についていないので、記入してよいのかどうか迷った。

c) 親子関係について

- ①⑨ 自分と妻の両方の親を考えた
- ② 自分の親を考えた。
- ③ 自分と妻の両方の親、自分と自分の子、両方で考えたので1つを選ぶのは難しかった。
- ④ 自分が子としての立場と、親としての立場と両方あるので、1つを選択するのは難しい。両方当てはまるのを選んだ。

d) 子供の教育、子育てについて

- ⑥ 子供がいないので記入してよいのかどうか迷った。
- ⑦ 選択肢の中で、父、母が分かれている。どちらか一つを選ぶのは難しく、「両親」となっているほうが記入しやすかった。

【問 13】

- ③ d) のような質問の意図がわからなかった。抵抗感というほどではない。
- ⑥⑦⑧ 想像で記入することはできた。

【問 14】

- ④ 先月まで働いていたので、f に解答欄がなかった。記入していない。
- ⑤ d) の質問も最後の仕事について記入してしまった。
e) f) 空白にした。これらにも「最後の仕事について」と記載していたほうが分かりやすい。
- ③ b) どこにつけたらよいか迷った。

他の3人の意見は「迷いなし」。

【問 15】

- ③ 「現在の仕事」とは、自分個人の仕事か世相か迷った。
「現在のあなたの仕事」とした方が分かりやすいのではないか。

【問 16】

- ⑥⑦ 現在の自分の勤務時間と同じ位で記入
- ⑧⑨ 現在より、少ない時間で記入
- ④ 現在よりもう少し働いても良いと考えて記入
- ⑤ 昨年退職したので、もし働くならば、と仮定して記入

【問 17】「金銭的な援助」をどのように解釈したか。

- ⑥ 1～3月までの学生時代の援助も含めて記入。
- ⑦ 現金のやり取りと食事のご馳走（外食）なども含めた。
- ⑧ 依頼があった時の援助と考えた。
- ①⑨ 金銭の授受のみと考えた。
- ② 気持ち程度のお小遣いの額も含めた。
- ③ 現金と考え、双方の受け渡しを+、-して考えた。親戚の冠婚葬祭のご祝儀等も含めた。
- ④ 現金の受け渡しと考えた。
- ⑤ 生活の援助となる金銭の受け渡しと考え、冠婚葬祭は含めなかった。

【問 18】

- ⑤ 年は分かっても月が思い出せない。家で記入すればできると思う。
配偶者の親の欄でd)の質問は、配偶者の兄弟と同居なので、5その他と回答。
- ④ 両親の生年月日が思い出せない。母の学歴が分からない。
死亡の欄に、平成がない。
- ② 配偶者の両親の生年月日が分からない。
平成がなかったので、西暦で記入。
- ⑥⑧ 新制、旧制が良く分からず、親の学歴は想像で記入した。

【問 19】

- ③ 農家だったので、b)は自営に記入してc)を6.農林漁業に記入。
- ④ 菓子製造、販売の両方をしていたので、c)その他に記入した。
- ⑤ 農家だったので、b)はその他（農業）に記入してc)を6.農林漁業に記入。
- ⑧ 公務員だったので、c)はその他に記入。

【問 20】 特になし

【問 21】 特になし

【問 22】 特になし

【問 23】 特になし

【問 24】 特になし

【問 25】 ①「たまに」「時々」の頻度が良く分からなかったが記入できた。

【問 26】 特になし

【問 27】 特になし

【問 28】

③ 17才の子供まで記入してしまった。

④ 子供の施設に面会に行くことを基準にして d)、e)を記入。

【問 29】 h)「ベビー・シッターや保育園・幼稚園などの保育施設」について

③ 毎日幼稚園には通っていたが、日常的に世話しているのは親で幼稚園ではないと判断し3と回答。

④ 毎日幼稚園には通っていたので、2と回答。幼稚園も学校教育の一貫と考えて、日常生活において、ということで考えた。

⑤ 幼稚園には通っていたが、教育子育ての中心は家庭と考えていたので5と回答

⑤ 幼稚園に毎日通っていたので、1と回答。

d)

①「同居していない子供の祖父母」を勘違いして、「該当者なし」に記入してしまった。

【問 30】

④ 妻に確認しなくては分からないので、大体の予想で記入

③ 食費は含めず、学費+小遣い+習い事で記入

① 妻に任せているので良く分からなかったなので、大体で記入。教育費と習い事。

② 教育費と習い事の合計で記入。

【問 31】 ⑧ 特定の相手がいる、という前提があるのかどうか迷った。

【問 32】 ⑦ 住居が1つであれば同棲としてよいのかどうか考えた。
住居1つが同棲と判断して記入。

【問 33】 ⑥ 問題の表を見て、問13と同じ質問とってしまった。
⑦ 「a.生活水準」と「g.生活全般の満足度」を同じに考えてしまった。

【問 34】 f) 結婚後の住居について
⑧ 同居などを含めず、単純に住まいと考えた。
⑦ 結婚相手が、仕事を続けるか否かによって回答は変わってしまうが、仕事を続けると仮定して記入。

【問 35】 特になし。

「あなたが実際にこの調査を依頼されたら、引き受けますか。」について議論：

- ① 時間があれば、引き受けると思うが、生活に余裕がなく忙しければ断る可能性もある。図書券は効果的と思う。
- ② 基本的に、調査は何でも引き受けている。
- ③ 先に葉書か何かで通知があった方が引き受けてくれると思う。ただ、何も知らなければ、どうして自分が回答者になったのか不安があると思う。公の機関を装っての不正があるので、その不安を払拭するのが必要。
- ④ なぜ自分が選ばれたのか不安なので、区役所に問い合わせるかもしれない。先に案内があれば引き受けると思う。いきなりだと、断る人も多いと思う。
- ⑤ 市など公の機関からの公文書があれば引き受けると思うが、無作為では難しいのではないか。あらかじめ、承諾を得た人から実施したほうが良いのでは。
- ⑥ 調査の存在、内容を知らなければ不安が多いと思う。新聞記事も有効とは思いますが、都市部では無理なのではないか。自分は調査関係の事を知っているので、引き受けると思う。
- ⑦ 調査員が写真付の身分証明書を持っていけばいいのでは。全国紙の記事があれば知名度が上がり、良いのではないかと思う。
- ⑧ いきよりの訪問だったら、拒否すると思う。自分にとって必要性があるとは思えない。結果がどのように使われるのか明らかにされれば協力を考慮する。葉書で趣旨が分かれば、自分個人としては引き受ける。調査結果を公表するとした方が信頼が得られると思う。1年後に公表されるなどの記述があった方がよい。
- ⑨ 調査、セールス、勧誘が多すぎて、知人の依頼でもない限り、拒否してしまうと思う。新聞記事があっても拒否する。

以上

資料5 「結婚と家族に関する国際比較調査」
調査員ヒアリング：概要とまとめ

「結婚と家族に関する国際比較調査」実施にむけて、実査および調査票の内容について検討するための調査員に対するヒアリングを、平成 15 年 11 月 25 日に仙台で、平成 15 年 11 月 27 日に東京で実施した。ヒアリングは、それぞれの地点においてプレテストの実査（対象者の抽出、調査票の配付と回収）を担当した各 10 人（合計 20 人）の調査員を対象として行われた。

ヒアリングでは、まず各調査員が実査を担当した地区ごとの地域特性と回収状況、調査不能があった場合の具体的な内容を報告してもらい、続いて依頼状の内容、謝礼、調査票の各設問、記入時間等について実際に調査を担当する調査員の視点から問題点や修正すべき点に関する意見を聞いた。

次ページ以降の概要に示したとおり、調査票の設問および依頼状や謝礼について、また実査における問題点など、多くの意見が提起された。これらヒアリングの結果に基づき、調査票の各設問におけるワーディングの改善、挨拶状の文章の改善が行われ、また実査の手順としては、調査客体全員に調査に関する説明と挨拶のためのハガキを郵送することが付加された。また、調査員によって実査の手順が異なるケースも明らかになったことから、調査票の配付から回収に至る手続きについて可能なかぎり統一化することなどが検討された。

次ページ以降は、東京と仙台におけるヒアリングの具体的な内容を集約したものである。

（西岡八郎・星 敦士）

GGP「結婚と家族に関する国際比較調査」調査員ヒアリング（仙台）

日時：2003年11月25日（火）13:00～15:00

場所：仙台商工会議所 会議室

ヒアリング対象者：調査員（男性4名・女性6名）

調査員を対象としたヒアリングでは、まず担当した各調査地域の特性と実査状況、調査不能があった場合の具体的な状況と理由を報告してもらい、次に依頼状・調査票内容について調査員の視点から評価、検討を行った。最後に調査時間やその他の実査手順に関しての意見を述べてもらった。以降では聞き取り項目ごとにその概要を記述する。

地点別実査状況・不能理由：

【地点1】

- ・地域特性：住宅街、ワンルームマンション・アパート等
- ・拒否は2件。理由として挙げられたのは「多忙のため」「面倒だから」というものだった。

【地点2】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は4件。理由はいずれも「プライバシーに関する不安」だった。なお4件中2件は対象者本人ではなく家族によって拒否されている。

【地点3】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は4件。そのうち、調査票の配付はできたが回収時に調査内容を理由に拒否したケースがあった。

【地点4】

- ・地域特性：飲食店・商店街
- ・拒否は5件。そのうち4件は回収時に調査内容を理由に拒否された。

【地点5】

- ・地域特性：農村地域
- ・拒否は2件。そのうち1件は対象者本人以外（母親）による拒否だった。

【地点6】

- ・地域特性：国道沿いの住宅地、一部農村地域
- ・拒否は6件。うち4件が対象者本人ではなく家族による拒否であった。本調査の内容で

はなく社会調査全体への不信感から拒否するケースが3件あった。

【地点7】

- ・地域特性：農村、零細下請工業
- ・拒否は1件。対象者本人が調査内容について詳しい説明を求め、それを聞いたうえで拒否された。

【地点8】

- ・地域特性：新興住宅地・団地（昼間不在が多い）
- ・拒否は4件。そのうち調査内容を聞いたうえで拒否したケースが2件あった。

【地点9】

- ・地域特性：農村地域（ただし対象者に農業はいなかった）
- ・拒否は1件。ただし理由は回収時期に不在予定のためというものでプライバシー等の理由ではなかった。

【地点10】

- ・地域特性：旧市街地
- ・拒否は3件。そのうち調査の内容を確認したうえで拒否したケースが1件あった。また調査全般について拒否しているということで協力を得られなかったケースが1件あった。

【まとめ】

- ・不能の内訳として最も多いのは拒否（59件中32件）、次が長期・一時不在（17件）。
- ・マンションやアパートの多い地区【地点①】、団地【地点⑧】では調査の説明をして理解を得ることが難しい（接触ができないため）。また土地柄でセールスが多い場所【地点⑥】では突然の来訪者に対する不信感から調査拒否が多い。一方、農村部では比較的理解が得られやすかった【地点⑦・⑨】。

依頼状（挨拶状）について：

- ・具体的な拒否の状況として、インターホン越しで断るケースが多い（＝依頼状を渡すことができない）。→葉書等で事前に依頼状を出すことはできないか【地点⑦・⑧】。
- ・担当した15人のうち13人がアパート・マンションのため、依頼状をその場で読ませることができない。対象者と対面接触できない状況で調査不能になるケースが多い。→不在票の内容・文面を改善した方がよい【地点①】。
- ・依頼状の文章が高齢者にとって理解できない【地点⑩】。
- ・なぜ自分が選ばれたのかが依頼状に書いてない【地点⑤・⑦・⑧】。

謝礼について：

- ・事前に金額を提示した調査員としていない調査員がいた。
- ・金額について不満を述べた対象者はいなかった。金額を事前に提示しないならば額面は

関係ない。提示した方が協力を引き出しやすいとした調査員は多かった。

調査票の各設問について（意見のあった設問のみ掲載）：

【問 2】

- ・自分（回答者本人）を除いた人数を記入しているケースが多い。

【問 5】

- ・「住まい」とは居住地か、住宅かが分からない。

【問 6 b】

- ・高齢者は回答しにくいのではないか。

【問 9】

- ・回答者自身が、ということと、家族が、ということの区別が分からない（他の設問について同じような意見があった）。

【問 1 2】

- ・ a)～d)の”主語”は誰かが分からない。

【問 1 4】

- ・家事労働は「働いている」ことになるのか。

【問 1 7】

- ・学費は援助に含むのか。

【問 1 8】

- ・敷地内別居の場合、同別居はどのように判断するのか。

【問 1 8 a】

- ・生年月日が不明のケースが多い(特に配偶者の親について)。だいたい年齢ならわかる。

【問 1 8 d】

- ・選択肢がおかしい（配偶者の親の場合は「配偶者のきょうだい」ではないか）。

【問 1 9】

- ・離別していた場合には配偶者の状況が分からないというケースがあった。

【問 2 4・2 5】

- ・離死別していても回答しているケースがあった。

【問28】

- ・第1子が死亡している場合、第2子以降のこどもの記入個所が分からない。

【問28c】

- ・「その他」欄に「主婦」と書き込むケースがあった。

【問29】

- ・保育園・幼稚園には行っているがベビーシッターを利用していないので、「5. 利用していない」を選択する回答者がいた。
- ・小学校に入る前の子供も該当することに気付かなかった（小学校に入った子供が対象だと思った）。
- ・頻度の程度が「毎日」の場合、どこに○を付ければよいか分からない。

記入時間について

- ・高齢者ほど時間が長くかかる傾向はどの地点も同じ（特に親に関する回答が難しい）。
- ・高齢層（60歳以上）では記入に1時間以上かかるケースがみられた。回答時間に男女差は特にない。仙台調査での最長時間は60代女性で100分【地点⑨】、最短時間は20代～40代で15分程度（複数地点）。

その他の意見・発言

- ・対象者が高齢者の場合、単独では回答が難しいため面接式に近い形で調査員が記入を補助したケースがあった。ある程度は対象者の状況に合わせた対応が必要ではないか。

以上

GGP「結婚と家族に関する国際比較調査」調査員ヒアリング（東京）

日時：2003年11月27日（木）14：00～16：00

場所：（社）新情報センター 本社ビル 会議室

ヒアリング対象：調査員（男性1名・女性9名）

仙台における調査員ヒアリング同様に、まず担当した各調査地域の特性と実査状況、調査不能があった場合の具体的な状況と理由を報告してもらい、次に依頼状・調査票内容について調査員の視点から評価、検討を行った。最後に調査時間やその他の実査手順に関しての意見を述べてもらった。以降では聞き取り項目ごとにその概要を記述する。

地点別実査状況・不能理由：

【地点 11】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は3件。うち2件は本調査だけではなく、社会調査全般に対して拒否しているケースだった。

【地点 12】

- ・地域特性：商店街
- ・拒否は8件。本調査の内容ではなく社会調査への不信感から拒否された。

【地点 13】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は8件。そのうち調査票の配付はできたが、回収時に「多忙」を理由に拒否されたケースが2件あった。

【地点 14】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は8件。そのうち、アンケート類には一切協力していない、という対象者が6件あった。

【地点 15】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は3件。この地点では、密封回収を行う等、調査員が独自な方法を採用していた。

【地点 16】

- ・地域特性：旧市街地（区画整理反対運動あり）

- ・拒否は5件。すべて対象者以外（親）による拒否だった。

【地点17】

- ・地域特性：文教地区、マンション
- ・拒否は4件。そのうち対象者本人から明確に拒否の意思表示があったのは2件だった。その他の1件は健康上の理由、もう1件は調査票の配付はできたものの調査期間中に回収できなかった。

【地点18】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は6件。うち5件は対象者外（家族）による拒否だった。

【地点19】

- ・地域特性：住宅地、マンション
- ・拒否は7件。うち3件は調査票は配付したものの白紙回答であったり、不在で回収できなかったことによる調査不能。

【地点20】

- ・地域特性：住宅地
- ・拒否は9件。そのうち2件はいずれも調査票は配付できたものの、回収時に対象者本人から拒否された。他の拒否は配付時にインターホン越しで拒否されたため本人か否か確認できない。

【まとめ】

- ・仙台同様、不能の内訳として最も多いのは拒否（144件中93件）、次が長期・一時不在（34件）。
- ・オートロックマンションが多く対象者との接触が難しい【地点⑰・⑱】。
- ・調査票の内容を見てからではなく、訪問当初からアンケート類全般への拒否を示す対象者が多い（複数地点）。
- ・担当地点が調査員の居住地だったため、調査が難しい場合があった【地点⑳】。

依頼状（挨拶状）について：

- ・調査タイトルが伝えにくい【地点⑩】。
- ・文章に調査概要・質問内容をもう少し詳しく加えた方がよい（複数地点）。
- ・依頼状の内容を事前に伝えられると調査しやすい（事前葉書等）【地点⑯】。

謝礼について：

- ・依頼状に金額を提示したほうがよい。
- ・金額について対象者からクレームはなかった。

調査票の各設問について（意見のあった設問のみ掲載）：

【問 2】

- ・本人（記入者）が入っていないケースがあった。

【問 7】

- ・内容が他の設問と重複しているのではないか（他の設問にも同意見があった）。

【問 8 e・f】

- ・頻度として回答させるのは不適切ではないか。

【問 1 4】

- ・b、cの注意書きの意味が伝わりにくい。
- ・学生はどのように回答すればよいか分からない。

【問 1 7 c】

- ・項目の文章、回答方法が分からない。

【問 1 8】

- ・出生年月は「月」まで答えられないケースがあった。死亡していてもd以降に回答しているケースがある。
- ・bの年号に「平成」がない。

【問 2 9 h】

- ・頻度では回答できない。

【問 3 2・3 3 d】

- ・高齢者は回答しにくい。

【全体を通して】

- ・矢印や文章による誘導方法が分かりづらい。誘導文は文中や文末ではなく質問文の冒頭にあった方がよい。また質問文はもっとシンプルにまとめた方がよい。
- ・裏表紙は白紙のものを付けたほうが良いのではないか。

記入時間について：

- ・各地点とも60歳以上のケースでは60分を超えている。また50代でも40～50分かかったケースがある。若年層では15分程度で回答が終わっている。男女に回答時間の差はみられない。
- ・回答時間の長さについて対象者からクレームを受けた地点は無かった。
- ・東京調査の最長時間は60歳代の男性・女性で70分、最短時間は20歳女性の13分。

その他の意見・発言

- ・オートロックマンションに住む対象者の訪問方法について注意が必要（ドアが開いた時に勝手に入った調査員もいた）。
- ・地点⑮の調査員は独自に密封回収の方法を採用していた。協力は得られやすいが記入漏れや誤記入が多い（今回の調査では基本的には調査員が回収時に内容をチェックする方法を採用している）。基本的な実査方法は統一しておく必要がある。
- ・対象者本人が不在の場合に家族に渡した調査員と、本人が不在なので配付しなかった調査員がいた。この点についても調査主体としての統一した指示が必要。

以 上

資料6 プレテスト基礎集計表

次ページ以降の集計表は「結婚と家族に関する国際比較調査」の本調査実施にむけて調査票内容のチェックおよび検討のために行われたプレテスト・データの基礎集計である。表中の数値は各質問項目について回答者の男女別にみた度数分布を示している。なお、各世帯員の属性に関する設問（問1）、第1子～第5子までの子どもの属性に関する設問（問27）の集計は紙幅の都合上省略した。また、すべての集計において不詳・無回答、非該当のケースを除いているため、各表のn（ケース数）は一致しない場合がある。

（星 敦士）

表1 性別×同居家族人数(問2)

	合 計	同居家族人数				
		1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以上
合計	206	9	33	54	58	52
男性	96	5	16	24	23	28
女性	110	4	17	30	35	24

表2 性別×住宅形態(問3)

	合 計	住宅形態							
		(一戸建ての持ち家 (ローンなし))	(一戸建ての持ち家 (ローン返済中))	賃貸の一戸建て	(分譲マンション (ローンなし))	(分譲マンション (ローン返済中))	賃貸マンション・ 賃貸アパート	雇い主から供給さ れている住宅	社宅・官舎などの
合計	204	95	51	5	2	17	27	2	5
男性	95	41	21	4	1	7	16	1	4
女性	109	54	30	1	1	10	11	1	1

表3 性別×部屋数(問4)

	合 計	部屋数					
		1 部屋	2 部屋	3 部屋	4 部屋	5 部屋	6 部屋 以上
合計	206	6	13	26	35	41	85
男性	96	4	7	19	16	12	38
女性	110	2	6	7	19	29	47

表4 性別×居住年(問5)

	合 計	居住年数					
		9 年 以下	1 0 ～ 1 9 年	2 0 ～ 2 9 年	3 0 ～ 3 9 年	4 0 ～ 4 9 年	5 0 年 以上
合計	206	86	36	39	25	13	7
男性	96	40	16	18	11	7	4
女性	110	46	20	21	14	6	3

表5-1 性別×これから子どもがほしいか(問6)

	合計	これから子どもがほしいか				
		ぜひほしい	ほしい	どちらともいえない	あまりほしくない	絶対ほしくない
合計	192	17	20	34	37	84
男性	93	10	8	15	18	42
女性	99	7	12	19	19	42

表5-2 性別×ほしい子どもの数(問6a)

	合計	ほしい子どもの数			
		1人	2人	3人	4人
合計	36	1	23	10	2
男性	18	-	13	4	1
女性	18	1	10	6	1

表5-3 性別×子どものほしい時期(問6b)

	合計	子どものほしい時期					
		今すぐ	今から3年以内に	今から3～4年後	今から5年以上	現在、妊娠している	いつとはいえない
合計	36	3	15	2	4	2	10
男性	18	2	8	1	3	-	4
女性	18	1	7	1	1	2	6

表6-1 性別×年齢[回答者](問7a)

	合計	年齢[回答者]				
		29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
合計	206	32	40	39	47	48
男性	96	15	15	21	20	25
女性	110	17	25	18	27	23

表6-2 性別×最終学歴[回答者](問7b)

	合 計	最終学歴[回答者]					
		校 ・ 青 年 学 校	小 学 中 学 校 、 旧 制	新 制 ・ 実 業 学 校 な ど	学 校 ・ 高 校 、 旧 制 中	校 卒 業 後 ） 各 種 専 門 学 校 （ 高	校 ・ 高 等 師 範 学 校
合計	201	19	85	23	20	54	4
男性	93	7	38	7	4	37	2
女性	108	12	47	16	16	17	2

表6-3 性別×卒業の有無[回答者](問7c)

	合 計	卒業の有無[回答者]		
		現 在 、 在 学 中	卒 業 し た	中 退 し た
合計	202	12	185	5
男性	94	5	87	2
女性	108	7	98	3

表6-4 性別×15歳までの主な居住地[回答者](問7d)

	合 計	15歳までの主な居住地[回答者]	
		都 市 ・ 都 会	農 村 ・ 山 村 ・ 漁 村
合計	204	120	84
男性	95	52	43
女性	109	68	41

表6-5 性別×きょうだい数(問7e)

	合 計	きょうだい数[回答者](平均値)			
		兄	姉	弟	妹
合計	-	0.67	0.82	0.89	0.80
男性	-	0.58	0.68	0.84	0.78
女性	-	0.75	0.93	0.93	0.83